

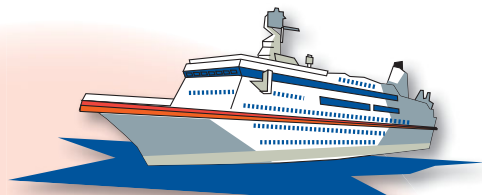


高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル7F
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
URL: <http://www.hokkaido-koupren.com/>

今号の内容

- ▶ シリーズ北の志
・小樽水産高校
- ▶ 支部だより
十勝支部・旭川支部
- ▶ 高校生と語るつどい
- ▶ 第64回全国高P連大会
- ▶ 北海道高等学校安全互助会



Heart to Heart 北の志
—ひたむきに頑張る君たちを応援したい—

海洋国の未来を担う

若者にエールを!!



だべ...



北のスペシャリストを育成する

北海道小樽水産高等学校教頭 亀山 喜明



1 沿革

本校は、明治38年に北海道庁立水産学校として創立され、「漁労」「製造」「養殖」の3分科が設置されました。昭和25年には北海道小樽水産高等学校と改称され、漁業科、水産製造科、水産増殖科の3学科が設置され、その後幾多の変遷を経て、現在は海洋漁業科、水産食品科、栽培漁業科、情報通信科の4学科が設置されています。本年度で創立109年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

2 主な学習内容

(1) 海洋漁業科

漁業や船舶の運航、潜水や海洋の利用などについて学びます。2年生からコース別に分かれ、海洋コースでは潜水実習や海洋スポーツ実習などを行い、現在は18日間の乗船実習があり、沖縄で潜水実習を行っています。一方、漁業コースでは沿岸漁業実習や49日間のマグロ延縄長期乗船実習のほか、海外での国際交流活動などを行っています。これまでハワイ周辺海域で漁獲されたマグロは清水港（静岡県）で水揚げされていましたが、今年度は小樽港で水揚げされる予定です。

(2) 水産食品科

水産物を中心とした食品の製造、管理、流通について学びます。缶詰やねり製品などの製造実習や食品科学実験、校外での販売実習などを行っています。販売実習は小樽マリンフェスタや後志収穫祭など地域と連携した取組として実施し、今年度は新たに札幌丸井今井

とのコラボにより、缶詰販売会を実施するとともに、生徒による「お魚さばき方講座」を実施しました。



(3) 栽培漁業科

水産生物の生態や海洋環境のほか、サケ・ヒラメ・ウニなどの生産やプランクトン培養について学びます。また、古平町に栽培漁業実習場があり、宿泊実習を行うほか、地域の小学校等と連携し、施設見学やサケの稚魚放流などを実施しています。3年生では一級小型船舶操縦士コースと栽培漁業コースの選択制を導入しています。

(4) 情報通信科

無線通信や有線通信及び電気工事に関する基礎的な知識・技術を学ぶほか、パソコン検定や情報通信技術検定を通してパソコンの基本操作・応用技術について学びます。2年生では選択科目を設定し、進路希望にあった資格取得を目指します。道内唯一の教育用海岸無線局が設置しており、北海道教育



庁の実習船と通信実習を行い、即戦力を養っています。

3 PTA行事

(1) 学校開放講座

平成15年度から毎年実施している学校開放講座は、4つの学科がそれぞれの特色を生かした講座を用意してもらい実施しています。海洋技術科は小型実習船の操船体験やシミュレータの操作、水産食品科はサンマや紅ガケを使用した缶詰製造、栽培漁業科はプランクトンの観察や網糸を使用したストラップ作製、情報通信科はオリジナルTシャツづくりやラジオ製作などの講座が用意されています。近年では、PTAだけでなく、近隣地域の方々にも参加していただいています。

(2) 大型実習船による体験航海

生徒の実習のため、大型実習船が小樽港に入港した際、PTAを対象とした体験航海を実施しています。船内では施設見学のほか、避難訓練やロープワーク体験なども実施しています。今年度は高P連の全道大会と重なってしまっただけもあり、午後2時間ほどの航海でしたが、これまでも昼食はさんでの5時間にも及ぶ体験航海を実施するなど、例年好評です。



支部だより

勝部
十支

地元の取組を再認識

道高P連十勝支部 森 房 明
(北海道帯広柏葉高等学校PTA会長)

十勝支部は現在26校の単Pが加盟しております。

平成26年度の支部事業計画としては、5月24日に支部総会を開催し、9月12日に交通安全街頭指導、10月2日に研修会を開催しました。

10月2日に開催した支部

研修会では、新得高校さんに当番校となっていたいただき、10時から共同学舎新得農場においてチーズ工房見学会の後、新得そばの館でのそば打ち体験及び試食を行い、13時からコンサドール札幌の野々村社長をお招きしての講演会を開催しました。

午前中のチーズ工房見学会では、共同学舎の理念、これまでの活動の歩み等々を聞かせていただき、理想に基づく教育方針を実践すること、で事業として見事な成果を上げられ、かつ、地域の産業活性化に寄与している成功事例として再認識することができました。

そば打ち体験では、講師の方の説明がかなり詳細で、大変興味深く体験さ

せていただきました。

そばを打つということの奥深さを理解することができ、試食では商品との食べ比べをして、貴重な経験をさせていただきました。

コンサドール札幌の野々村社長の講演では、クラブ運営に関しての社長の目の付け所が大変ユニークで感心しました。昨年

ナム選手の獲得や今年の小野選手の獲得に関しての裏話は、資金面においての弱小クラブがいかにして他クラブとの差別化を図り、クラブの強化につなげていくかということの取り組みのひとつであるとのこと

です。弱小チームゆえの悩みに、どのように挑戦していけばよいかということに対して、創意工夫がなにより重要ということを知ることができました。

今回の機会は、このよう



な事例が地元にあるがら、今まで積極的に関心を向けてこなかったことへの反省をする良い機会となりました。

本年度をもちまして本校の十勝支部支部長校としての2年間の終了します。支部の事業を運営するにあたり、管内各単Pの皆様のご協力とご支援をいただいたことで、無事終了することができました。改めて心からお礼申し上げ、支部報告とさせていただきます。

旭川
旭支

旭川支部より

道高P連旭川支部長 世木澤 実
(北海道旭川西高等学校PTA会長)

旭川支部は、現在二十一年校二十五単P（生徒数約九四〇〇名）で構成されています。

五月二十三日の支部総会では、道高P連から洞野副会長のご臨席をいただき、百五十三名の参加で盛会に開催されました。

この支部総会では、昨年度の事業報告・決算、新年度の事業計画・予算・役員改選案等を承認していただきました。また、研究協議では「高校生の就職をめぐる状況について」をテーマに、旭川公共職業安定所就職指導官吉川仁啓様にご講演を頂きました。総会後の懇親会では、各校の紹介や地域のPRなどがあり、有意義な交流がなされたと思います。

六月二十日には、旭川トヨホテルにて「広報担当者の集い」を開催いたしました。NPO法人かわうそ倶楽部事務局長中尾伊早子様を講師にお迎えし、「読みたくなる広報誌とは」をテーマにご講演頂きました。かわうそ倶楽部作成の「緑道ライフマップ」に

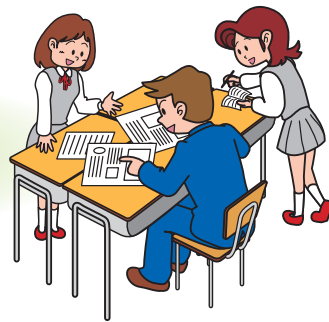
込められた工夫の数々などのノウハウに始まり、テーマを興味のあるものにして思いを入れるなど楽しく作成する心構え等をお話頂きました。来場者との軽妙な会話の中で本音を引き出し適切なアドバイスをなさる姿は、さすが「自然と人、人と人を結ぶプロデューサー」と呼ばれる方だと感動しました。講演後は、各校持ち寄って頂いた広報誌を参考にしながらの交流会が有意義な意見交換ができました。

十月三十一日には、『やれる！』の芽をのばす」をテーマに、セルフエスティーム代表坪崎美佐緒様を講師にお迎えしての生徒指導研修会を予定しております。コーチングのプロから子供達の「やる気スイッチ」を押すコツを教えていただけると楽しみにしております。

支部事業としては、あと一回全体的な研修会を予定しており、子供達の健全な育成に役立つ研修会にしたいと検討しております。今年一年間事務局校として道P連のご支援を頂きながら子供達の健やかな成長に微力ながら手助けが出来ますよう、皆様のご協力を頂きながらPTA活動を行って参りたいと思います。宜しくお願いいたします。



高校生と語るつどい」



函館支部
函館西
高等学校



8月8日(金)～9日(土)泊2日の日程で、道立青少年体験活動支援施設ネイパル森を会場に、北海道高等学校PTA連合会道南支部「高校生と語るつどい」を開催いたしました。当日は道南支部加盟校から生徒、保護者、教員、道高P連本部役員を含め、48名の参加者が寝食をともにし、講演・分科会・体験活動・レクリエーション・発表会に取り組みました。

テーマは「いのちのおはなしをつくろう」～小さな子どもたちに伝わる言葉です。『いのち』について考え、語り合い、最後に「小さな子どもたちに伝わる言葉」で絵本や紙芝居を作り発表するという内容で、いのちについての痛ましい報道が多い昨今、今まさに語るべきテーマで実施されました。

テーマ

いのちのおはなしをつくろう
～小さな子どもたちに伝わる言葉で～

講師は絵本作家の「あまさか ゆう」様を迎え、いのちについてのお話をいただきました。あまさか様はご自身の子育てのご経験から、絵本作家として今日活躍されている方です。作品の中には、平成18年度北海道「伝えたい北海道の物語」コンテスト優秀賞受賞の『実行寺の小坊主』と珍さんはおおいそがし』～江戸時代日本で初めてハリストス正教会の聖歌が流れた函館のお寺でのおはなし』や、今から約6500年前の墓から出土(南茅部・垣ノ島遺跡)した足型付土板をイメージして書かれた「縄文のおはなし あかちゃんがあまれたよ」などがあります。講演では、絵本を使った楽しいお話や、「いのちについて考えたこと」があります。講演では、講師から生徒達へ質問する場面もあり、生徒達からは「いのちは長い歴史の中で先祖代々受け継がれてきたもの」、「これからも受け継いでいくもの」など、大変感慨深い想いが語られていました。



分科会Ⅰでは、講演や分科会Ⅰでの語り合いから、参加者一人一人が感じた「いのちのおはなし」についての作品づくりを行いました。講師のあまさか様のご指導のもと、絵コンテ作りからスタートし、「葉っぱ一枚でも絵本になるよ」という講師のアドバイスを受け、皆さん熱心に取り組みでいました。

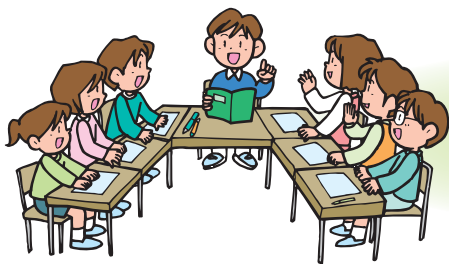


2日目の分科会Ⅱでは、発表に向けて最終の作品づくりに入りました。前日からの作業が本格的になり、全員の参加者が分科会Ⅲの開始時刻前から会場にきて作業している姿が見られました。

(いよいよ)発表会では、ニューヨークなどで活躍されているジャズピアニストの加茂紀子様が発表作品の内容に合わせ、即興でBGMを演奏してくださいました。参加者は緊張の中、講師より「評価なし、拍手なし」というルールが伝えられ、自分の作品を自分の言葉で、自分の声で朗読する、という発表で、会場にはピアノの音発表者の声だけが響き、感動的な時間が流れ、多くの涙が会場にあふれました。

閉会式では、道高P連石狩支部長の下山春美様からご挨拶をいただき、2日間の「高校生と語るつどい」の全日程を終了いたしました。

最後になりますが、参加してくださった生徒、保護者、教員、道高P連本部役員の皆様、そしてご協力いただいた多くの方々への感謝の気持ちを込めて道南支部の報告とさせていただきます。ありがとうございます。



平成26年度「高校生と語るつどい」

釧路支部
釧路湖陵
高等学校

今年度の釧路支部主管による「高校生と語るつどい」は、8月8日(金)～9日(土)にかけて、釧路湖陵高校を当番校としてネイパル厚岸で実施しました。

この事業は、高校生と保護者・教職員などの大人が宿泊等を共にし協働する中で、より相互理解を深めることや、地域社会の中で高校生が意欲的に活動し、健康やかに育つ環境づくりを目指すこと等を目的として、毎年、全道の2～3支部で開催しているものです。今年度は釧路支部と道南支部が同日開催で、釧路会場には、管内14校から生徒・保護者・教職員総勢90名の参加がありました。

初日は開会式に引き続き、釧路湿原野生生物保護センター内「猛禽類医学研究所」所長の獣医師齊藤慶輔先生に「野生の猛禽を診る」という題で講演をしていただきました。齊藤先生には昨年度の道高P連全道大会釧路大会でもPTA対象の講演をお願いしましたが、今回は主に高校生に対し、自然保護とは何をすべきかについて、野生動物との共生の難しさの具体例を



テーマ

世代を超えて
『夢』を語ろう！



分科会Ⅰのテーマは次の二つを設定しました。一つは「釧路管内を全国に宣伝するためにはどのようにすればよいか」です。齊藤先生の講演を受け、それぞれのグループ内で自分の地元の良い所を挙げ合いながら、多くの人が訪れる釧路管内にするための宣伝内容・方法等について話し合いました。二つ目は「中学

生がスマートフォンを持つことについて」です。SNSによるいじめ問題等が深刻化する状況で、スマートフォンを持ちながら中学生にどのようなアドバイスを送るか、大人と高校生それぞれの視点・立場から意見を出し合いました。

だいぶ打ち解けた中での夕食・交歓会では、各校の行事や特色ある教育活動などについて紹介し合いました。事前に要領は定められていたが、各校ともユニークな紹介ぶりでもとても楽しい交歓会となりました。



また、体育館には室内でできるフアィヤーストームの設備があり、たき火を中心に、初日の様子を撮った写真のスライドショーや、各グループが作成したポスターを眺めながら、交流を深める姿がここで見られました。

二日目の分科会Ⅱでは、新たにメンバーを組み替えてグループをつくりました。テーマは「高校生の将来の夢と大人達が高校生の頃に持っていた夢を語ろう」です。きっかけとして人生の先輩である大人達が自分かどのような高校生であったかを語り、次に今の高校生達の将来の夢やどんな大人になりたいかを聞き合いました。初めは戸惑っていた高校生達も、普段あまり聞かれない保護者や先生方の経験談や、同世代の高校生の悩みや将来の夢を聞くにつれて積極的な意見を述べるようになり、あっという間に時間が過ぎていきました。グループで何か結論づける分科会ではありませんでしたが、その後の

全体会では各グループの代表者が自分達の話し合いの内容を発表しました。

全体の感想としては、高校生達からは「初めは不安だったが、普段の高校生活では学べないことを教えてもらった。このような機会があればぜひまた参加したい。」という意見が多く、大人達からも「我が子と同世代の子の意見が聞けて良い刺激になった。高校生が将来の夢や親への素直な感謝の気持ちをストレートに表現してくれたことに感動した。」などの声が寄せられました。

保護者の方々にとっては参加しにくい日程ではありますが、高校生の健全育成に大いに役立つ事業です。で、今後とも多くの皆様に参加いただきますようお願い申し上げます。



第64回 全国高等学校PTA連合会大会 福井大会

「教育と考福」～未来に引き継ぐ 知と恵み～

第64回全国高等学校PTA連合会大会 福井県大会参加報告書

北海道函館西高等学校PTA副会長 山本潤一

●開会式

第64回全国高等学校PTA連合会大会が、8月21日(木)～22日(金)の2日間、福井県サンドーム福井を主会場に県内7会場で開催されました。メインテーマ「教育と幸福」サブテーマ「未来に引き継ぐ知と恵み」を掲げ全国から約1万人の参加者が参加し盛大に開催されました。

8月21日(木)の開会式前に行われたアトラクションでは、各会場で県内の高校生による吹奏楽演奏や郷土芸能演奏、書道パフォーマンスなど感動するアトラクションでした。開会式及び基調講演は、メイン会場であります福井県サンドーム福井で開催されている模様を各会場の大型スクリーン



にライブで放映されました。平澤良典福井大会副実行委員長の辞で本大会が開幕しました。

開会式では、大会主催者の佐野元彦全国高等学校PTA連合会会長より、四国地方で台風の影響があるにも関わらず参加してくれた方に感謝の気持ちが伝えられました。幕末に活躍した橋本左内の教えのある福井県で開催されることを心から感謝していました。「今回の研修で学んだことを明日からのPTA活動に生かしていたきたい」と式辞を述べました。

次に、北風俊哉福井大会実行委員長より、「幸福度ランキング日本一で自然環境に恵まれている福井県にようこそ」と歓迎の言葉がありました。「子どもたちのために、子どもが幸福になるために家庭・学校・地域が連携し子どもを育てよう」と挨拶がありました。

来賓には、下村博文文科科学大臣、西川一誠福井県知事、奈良俊幸越前市長が列席しそれぞれの方からご祝辞をいただいた後、PTA活動にご尽力された団体及び個人の方々に文部科学大臣表彰や全国大会会長表彰と続きました。

●基調講演

基調講演は、「尾木ママ」

こと教育評論家の尾木直樹さんを予定しておりましたが、体調不良により、講演ができなくなりました。尾木さんからは、お詫びのビデオメッセージが流されました。尾木さんのピンチヒッターとして、脳科学者の茂木健一郎さんが「今求められる考福脳」脳科学者からの提案」をテーマに基調講演を行いました。講演の中で茂木さんは、幸福は自分の個性を受け入れる場所があり、長所も短所も個性であり、勉強もスポーツも苦手な子どものすぐそばに長所がある。自分で出来なくても、人間関係を大切に、他の人にやらせる事が出来れば経営者となる事が出来る。個性とは良い所と悪い所があつて個性となる。人間の脳は一生学び続け、自分が出来ない事があるときに学ぶ、チャレンジする事によりドウパミンが出て脳が鍛えられる。教育マーケットでは京大・北大等の時代ではない、教育機関エディクの修了証で判定される時代だ、「批判的能力・システム思考・英語」が大事だ。欠点がある事は悪いことではない、出来なない事にチャレンジして脳からドウパミンを出す。幸福とは減点法ではない、自分が不幸と思うと幸福にはならない、幸福は自分の



状態、自分という個性を見つめ、他人と自分は違う、他人を見て自分の個性を見直し、他人と向き合うことで自分の個性がわかる。おろかな気持ちで自分の欠点を・長所・他人の欠点・長所を見つめてほしいという内容の講演が行われました。

●分科会

分科会では「生徒指導とPTA」連携・協働への啓発」をテーマに北海道名寄高等学校PTA副会長湯川孝一さんより「生徒の安全確保への願い」、東京都立片倉高等学校PTA会長松本成仁さんより「心の花」、大阪府立四條畷高等学校PTA顧問早矢仕隆男さんより「PTAに出来る事」、山口県立防府府商工高等学校PTA会長長満健太郎さん「特色ある学校づくりを通しての生徒指導」とそれぞれ日頃のPT

Aの活動について発表がありました。各学校では様々な諸問題があり、その問題を解決するため、各学校PTAで学校に合った活動をしていることを強く感じました。また、北海道を代表して発表した北海道名寄高等学校PTA副会長湯川孝一さんには心から敬意を表したいと思います。

●記念講演

記念講演では、福井県立恐竜博物館特別館長の東洋一さんが「福井の恐竜」アジア、そして世界へ」を演題に記念講演を行いました。講演の中で東さんは、福井県は恐竜化石の発掘が日本一であり、足掛け25年にわたって発掘調査をしている。調査を行った結果数種類の恐竜がいたことや、ヨーロッパの一部とアジアがつながっていた事がわかった。現在も恐竜は、鳥類と言う形で生き続けている、福井県から世界の恐竜を見てみたいと思うという内容の講演が行われました。

●まとめ

今回の研修に参加して、全国各地の熱意あるPTAの取り組みを肌で感じる事が出来ました。また、アトラクションを行った福井県内の高校生のパワーと情熱に、これからの日本を背負う若者の姿を見たような気がしました。

最後に大会を運営、実行された福井県高等学校PTA連合会の関係者及び会員の皆様にご心より感謝申し上げます。

第3分科会

生徒指導とPTA

～連携・協働への発展～

「発表を振り返って」

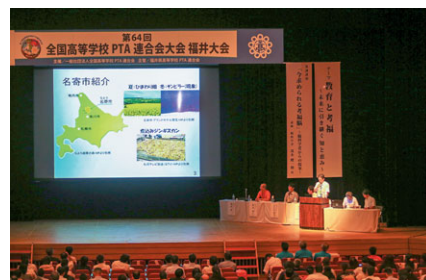
「生徒の安全確保への願い
～学校と家庭、地域との
密接な連携～」

北海道名寄高等学校PTA

副会長 湯川 孝一

さかのぼる事、約一年前、前任のT教頭先生から「湯川さん!!もしも、誰も行けなかつたら湯川さん行ってくれるかい?」この一言で私の福井行きは、ほぼ決定づけられていた!様な気がします。実は、この時の私のPTAの中の立場は、監査。本部役員に関わりを持つようになって、まだ1年も経っていない時の出来事です。日頃から子ども達の為、また、私自身が本校のOBであるという事から、出来るだけの事は協力をしたいという思いを常に持っておりました。もしも、行くことになってもせいぜい数十人からいても百人ちよつとの前で話くらいだろうとたかをくくっていました。まさか、あんな経験をする事になるうとは・・・

私の全国高P連福井大会行きが決定的となったのは、4月頃だったでしょう。H26年度のPTA本部役員候補がきまり、各役員が着々と決定しました。その後、本年度の対外行事の参加調整になった時でした。「皆さん都合がつきませんで、湯川さんをお願いすることにします。」というものでした。一般的には、新任の教頭先生と一緒に同行して下さるようだったのですが、今回の本校の発表内容について、ある程度精通している必要がある事や質疑応答があるとの事でしたので学校事情をよく知っている先生の方が適任であると考え、わがままだったかも知れませんが昨



年からお世話になった大沢先生に同行をお願いしました。また、プロジェクトのオペレーターとして操作をお願いする必要がありと、佐々木監査にも同行をお願いしました。8月20日(水)、いよいよ全国高P連福井大会に向けて出発の日を迎えました。大会日程は、8月21日(木)23日(土)。旭川空港から羽田空港、小松空港へと飛行機を乗り継ぎ、その日の夕方には、福井入りしました。その晩、準備をしてきた発表用のパワーポイントのスライドと発表原稿の最終すり合わせをしようという事になり先生の部屋へ行きました。この日、私が眠りにつく事が出来たのは、緊張から翌朝3時を過ぎていたような気がします。8月21日(木)この日は、私が事例発表を予定していた第3分科会に参加する方々を集めた事前説明をする会議と通しのリハーサルの日でした。私は、北海道4地区の発表者のうちの一人くらいに思っ

いたのですが、「なんというのか!!」北海道代表であるという事に気付きました。この福井の旅の中で私の緊張がMAXになった瞬間でした。かなり嫌な汗をかいた事を思い出します。そうは言っても明日は本番です、これからリハーサルもあると言うことで、隣の東京から発表に来られた松本会長さんと世間話をしました。実は、勤務先は私の業界の取り扱いメーカー様だったり、息子さんの通っている大学が同じだったり、仲良くお話をさせて頂き、これまで緊張感が増してきていた中で大きな救いとなりました。ちなみに発表順は、北海道名寄高等学校↓東京都立片倉高等学校↓大阪府立四條畷(しじょうなわて)高等学校↓山口県立防府(ほうふ)商工高等学校です。ステージ下では、タイムキーパーがいたのですが見る余裕もなく、ちらっと目を向ける事が出来た時には、残り30秒の表示。早口で読み上げるも、間に合わず終了のベル。翌日に改善が必要となりました。その晩は、歓迎レセプションがユアーズホテルフクイにて開催されました。その中では、地元



北海道名寄高等学校
PTA副会長
湯川 孝一

料理がふるまわれました。もちろん福井県民のソウルフード「ソースカツ丼」もありました。8月22日(金)、発表当日。午前中は、高校生による太鼓演奏のアトラクションがあり開会式、基調講演という流れでした。基調講演で

は、脳科学者の茂木健一郎氏からこんな話が。「勉強のできない人の方が社長にむいてる」。勉強の出来る人は、自分で何でも出来るので、元々、人にお願ひすることが苦手。勉強のできない人の方が、自分の苦しい事を小さい頃から他の人にお願ひしてやつてもらうのが上手で社長にむいてる。といったお話や「幸せなのは、今の自分。多くの人に会わないと気がつく事が出来ない。自分の一部だけを見つめていると幸せでなくなってしまう。」など興味深い内容でした。いよいよ午後、事例発表の時です。会場に1,500人くらいいらつしやるではありません。もうこのころには、「1番初めの発表なので早く気持ちが楽になれるんだ」と聞き直って考えるようになっていました。

私は、「生徒の安全確保への願ひ、学校と家庭、地域との密接な連携」というタイトルで事例を発表しました。リハーサルの甲斐あって、準備してきた内容について与えられた時間内でしつかりと発表する事が出来ました。質疑応答では、2回ほど答弁を求められる場面がありましたが何とか私の分かる範囲での答弁が出来、無事発表を終了しました。サポートをして頂いた、佐々木さん、大沢先生、本当にありがとうございました。その晩は、福井から50分ほどのANAクラウンプラザホテル金沢にて、北海道参加者教育懇談会が開

催されました。200名くらいが参加した会で、また、ステージで発表終了後のスピーチをしたと依頼を受け、感想を話しました。この会の終盤に差し掛かり、本原稿の依頼をさっそく頂きました。道P連の広報の皆さんは、楽しそうにエネルギーがみなぎっています。これから機会があればいろいろなところへ出向いて沢山の事を吸収していきたいと思ひます。子ども達の為にも。前任のT教頭先生は、お忍びでちゃんと私の発表を見に来て下さっていたそうです。お世話になりました。しっかりとミッションを完了しましたよ。

最後になりますが、このような機会を与えて頂きました関係各位に感謝しお礼申し上げます。また、同行いただきました大沢先生、佐々木監査にもこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。

一般財団法人 北海道高等学校安全互助会 道教委からの事業認可を受け

「地域別説明会」など広報活動を展開 生徒とPTAを対象に、来年度から共済事業を実施し

共済事業の認可まで

北海道高等学校安全互助会が行う共済事業の内容は共済規程に定められています。共済規程は共済約款、事業方法書、算出方法書から成り立ち、これと財団法人としての本会の組織や運営について定めた定款により、本会の中核的規程が構成されています。

このように共済規程は重要な位置づけを持つことから、本会に設置された評議員会（高P連の13支部長、校長協会会長、副校長・教頭会会長、及び公立学校事務長会会長で構成）の決議を経て定められました。

実際に共済事業を実施するには、さらに、北海道教育委員会から事業の認可を受けることが必要です。本会では9月上旬の評議員会終了後、直ちに共済規程を始め多くの関連書類を添付して認可申請を行い、厳正な審査を経て、9月末日に教育長からの認可を受けることができました。



釧路支部説明会

北海道教育委員会の担当部署である生涯学習局生涯学習課の方々には様々な面で大変お世話になったところです。

全道に向けて広報活動

道教委からの事業認可を受け、10月からは本会設立の趣旨や共済事業の概要について理解を深めてもらう加入促進を図ることを目指し、本格的な広報活動を開始しました。校長協会の全道各支部での会議や公立学校事務長会等で時間を割いていたとき、本部役員や事務局員が出向いて共済事業の概要説明を行いました。

また、北海道シンポジウムや石狩支部研修会などの



空知支部説明会

全互助会の事業停止から本会設立に至るまでの経過説明や、共済事業における給付事業の概要、加入・請求手続き、安全や健康に関する普及啓発事業についての説明を行い、その後活発な質疑が行われました。

機会も利用することができました。

10月下旬から12月上旬にかけて、全道13支部で広報活動の最重点である地域別説明会が開催され、約100名のPTA会長を含め全道合わせて376名が参加しました。

本部役員と高P連支部長からの挨拶に続いて、旧安

10月
27日 北見支部（北見）
31日 根室支部（中標津）
11月

4日 釧路支部（釧路）
6日 十勝支部（帯広）
10日 後志支部（小樽）
17日 旭川支部（旭川）
20日 胆振支部（苫小牧）
25日 名寄支部（稚内）
27日 空知支部（岩見沢）
12月

1日 日高支部（新ひだか）
4日 道南支部（函館）
8日 留萌支部（留萌）
10日 石狩支部（札幌）

さらには、学校訪問や本会役員と単P会長との懇談も行っています。

寄せられた声から

広報活動は皆さんと本会役員等が直接お話しすることができる貴重な機会でした。会費を上げずに共済事業の対象にPTAの管理下のPTA会員や生徒を加えたことや、全員が加入しなければ単Pとして加入できないのを改め、希望する者に加入の道が開けたことには評価が寄せられています。もともと、全員が加入することを基本とする考え方は堅持しなければならぬとするPTA会長の強い意見もありました。これら広報活動を通じ9年ぶりに再開されるPTA

の手による共済事業を皆の手で育てていかねばならないという思いを新たにしました。



根室支部説明会

寄せられた質問や意見については今後検討を加え必要な修正や細則の設置等を行っていきます。

地域別説明会の質疑から

Q 「学校の管理下」として認められる範囲を詳しく知りたい。

A 本会の共済事業では「学校の管理下」で発生した災害については日本スポーツ振興センターの給付の上乗せであり、その際の「学校の管理下」の範囲は振興センターの定義によるものです。各学校にある振興センター資料を参考にしてください。

Q 同一校に二人の子供が在籍しているPTA会員の共済の取扱いはどうか。

A 本会の共済事業は子供が加入することにより自動的にPTA（保護者）が共済の対象となるものです。PTAの管理下でのPTA（保護者）の災害の場合に子供が二人在籍しているも災害を被ったのは一人であることから当該PTAへの給付は一人分です。

Q 他校に子供が在籍している教職員の会費の扱いはどうなるか。

A 本会の共済事業は、所属する単Pごとに契約します。教職員が共済の対象となるには、教職員の勤務校に自分の子供が在籍していない場合は会費を支払う必要があり、子供が在籍して加入した場合に当該教職員はPTA会員として共済の対象になります。子供が他校に在籍して加入した場合に教職員は子供の在籍校ではPTA会員として共済の対象となりません。

Q 加入や請求に必要な諸様式はダウンロードできるようにするのか。

A 本会では年度内にホームページを立ち上げ、その中で諸様式をダウンロードできるようにします。